

第16回 縄文楽検定 上級 解答集

令和6年4月作成

テキストから約57%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）
テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）
『あ、コレ知ってる！』：新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる！はにわ どぐう かえんどきの昭和平成』（新潟日報事業社、令和元年8月刊行）。
日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ガイドブック
（信濃川火焰街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）
『信濃川火焰街道連携協議会ガイドブック Vol.6』

No.	解	問題の出典と解説
1	c	日本遺産ガイドブック・巻末「構成文化財一覧」
2	d	テキスト外 守門岳1,537m、弥彦山634m、権現堂山（上権現堂山997m、下権現堂山896m）、浅草岳1,585mですので、弥彦山が最も低い山となります。
3	c	日本遺産ガイドブック・巻末「構成文化財一覧」
4	c	テキスト外 新潟市では砂崩前郷遺跡、原遺跡、十日町市では樽沢開田遺跡、津南町では正面ヶ原A遺跡などで見つかっています。魚沼市では、まだ出土例がありません。
5	c	日本遺産ガイドブックp15,26,31など
6	b	『あ、コレ知ってる！～』p68
7	b	テキスト外 笹山遺跡出土火焰型土器は1999年、志賀島出土金印は1954年、袈裟襷文銅鐸は1951年にそれぞれ国宝に指定されています。亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶は国宝ではなく、重要文化財です。
8	a	テキスト外
9	b	テキスト外
10	c	テキスト外
11	d	テキストⅡ p25
12	a	テキスト外
13	b	『あ、コレ知ってる！』p52
14	a	テキストⅠ p27
15	b	日本遺産ガイドブック 信濃川火焰街道MAPp37～など
16	a	テキスト外
17	d	『あ、コレ知ってる！』p106～127
18	c	テキストⅠ p8など
19	a	テキストⅡ p7、日本遺産ガイドブックp11など
20	b	テキスト外
21		テキストⅠ p9など
		（解答例） 火焰型土器の特徴は、口縁部に付く鶏頭冠突起、鋸歯状口縁、原則として縄文を使用せず、隆帯と隆線文によって施された浮彫的な文様です。頸部と胴部は隆帯で区画され、頸部と胴部上半部にはS字状渦巻文、胴部下半部には逆U字状文が描かれています。鶏頭冠突起の間には袋状突起や楕円区画文、鶏頭冠突起の下にはトンボ眼鏡状突起が付けられています。
22		テキスト外（参考『あ、コレ知ってる！』p23～25,26～29など）
		（解答例） 前者は、土器の出現を縄文時代の開始と定義しています。一方で後者は、土器が出現してもしばらくの間は旧石器時代からの移行期であると考えています。定住生活や貝塚などの本格的な縄文時代らしい生活の成立は縄文時代早期となる点を重視しています。

23		テキストⅠ p21～24など
		(解答例) 火炎土器文化は、火焰型土器や王冠型土器で表象されますが、三角形土製品、滑車形耳飾などの土製品、彫刻を施す石棒や石皿などの石製品も、重要な文化要素です。三角形土製品は、省略型土偶の一部として理解され、三角形土偶と呼称される場合もあります。三角どう形土製品は、用途不明な三角柱を呈するものです。滑車形耳飾は、貫通孔の有無で大別され、横断面形態から10種に細分されます。